



第7回 島根大学図書館蔵書リユース市開催

今年も「図書館蔵書リユース市」が開催されます。図書館の蔵書のうちで重版や改版により不要となり、廃棄される予定となっている古い学術書や研究書約6,000冊を、再利用してもらうために安価で販売する企画です。皆さんのお越しをお待ちしています。

開催日時：11月 9日(水) 13:00~17:00
11月 10日(木) 10:00~17:00
11月 11日(金) 10:00~13:00

開催場所：大学会館 3階大集会室

価 格：100円、200円、500円
(ほとんどは1冊100円です)



問合せ先
〒690-8504 松江市西川津町 1060
島根大学附属図書館
資料整備担当 山崎月子
電話 0852-32-6084
mail book@lib.shimane-u.ac.jp

館内展示「明治近代法の成立と松江地裁判治文庫」

本館では松江地方裁判所からの寄付資料を「松江地裁判治文庫」と名付けて受け入れました。

これに合わせ、明治期前半、欧米諸国の近代法をもとにして、日本でも憲法、民法、刑法などの近代法が整備されていく過程を、文庫とともにパネルで紹介する展示を行っています。場所は1階入り口右手展示コーナーです。ぜひご覧ください。

インターネット講習会のお知らせ

Web of Science、JCR(Journal Citation Reports)、EndNote Webなど、トムソン・ロイター社の提供するデータベース使用方法について、インターネット講習会が開催されます。11月の講習は、24日(木)の14:00~18:00の間に、データベース別に4コース(90分)がそれぞれ時間差で開講されます。スケジュール(12月分まで)の詳細と参加登録(※)は、下記URLからご確認ください。

インターネット講習会スケジュール - Web of Science -
<http://science.thomsonreuters.jp/products/wos/training/>

(※)参加希望の方は事前に登録が必要です。なお、この講習会はインターネット環境があれば、ご自宅や研究室など、どこからでもご参加いただけます。

CONTENTS

- 第7回島根大学図書館蔵書リユース市開催
インターネット講習会のお知らせ
図書館内装リニューアル
館内展示
- 「明治近代法の成立と松江地裁判治文庫」
- お薦め図書
- 森見登美彦『太陽の塔』
- つぎやきライム
- 第20回『簡単便利な本のマイナンバー』「SBN」
- ライムのぼんやりトーク

図書館内装リニューアル

先月末、内装を一部改装しました。その代表的な箇所を紹介いたします。島根大学附属図書館は、これからもより使い易い図書館を目指していきます。

- AVルームの改装
今回とくに力をいれました。快適に視聴できるように機器、配線の見直し、グループで利用できるようソファアー席も用意しました。
- 1階新聞コーナー
大きな机を設置しました。これで、新聞を机に広げながらゆっくり読むことができますのではないのでしょうか？
- 2階閲覧室の机配置
一部の机配置を風車型に変更しました。さらに机ごとに仕切

りを立て、より集中して利用してもらえように試みました。向かい合って座るのを苦手と感じていた方、ぜひご利用ください。

他にも改装を施した箇所はあります。来館したときに探してみてください。



お薦め図書

このコーナーは毎回様々な人が選んだお薦めの本を紹介するコーナーです。
今回は人文社会科学部 1 回生の図書館コンシェルジュ推薦図書です。

太陽の塔 森見登美彦

【913.6/Mo54 1F 閲覧室】

デビュー作には、その作家の作家性のすべてが内包されている……という言説があることは、多くの人が知っています。筆者だって知っていた。『太陽の塔』といえば、人気若手作家のひとりである森見登美彦のデビュー作である。彼に関しては、前述の言説はたしかに正しい。本作にはすでに、後に森見作品の代名詞となる要素——京都、腐れ大学生、妄想、博識ながら実のない「オモチロイ」語り、等々——が、ほぼ完成された形で登場している。おそろしい話である。

○

本作のあらすじは、恋人に袖にされた大学生「私」が、なぜそうなったのかに思いを馳せ、過去を回想しつつ、悪友たちと阿呆な暮らしを謳歌するというものである。これを語るにあたって、森見は、一人称小説であること——これも彼の小説の大きな特徴のひとつ——の利点を大胆に活用している。我々が饒舌に実のない会話を花開かせるがごとく、「私」の物語りは、一切の制約を受けない。すなわち、その「語り」

においては、現在も過去も夢も妄想も戯言もすべて同等であり、語り手は、それらの間を縦横無尽にオモチロおかしく行き来するのである。この一人称ゆえの自由奔放さは、後の森見作品と比べても群を抜いており、爽快ですらある。

しかし、語りの自由さが際立てば際立つほど、「私」の“どうにもできない不自由さ”がより切実に浮かび上がってくる。物語後半、主人公たちは溜まりに溜まった鬱憤を晴らすべく、クリスマスに浮かれる京都に「ええじゃないか騒動」を再現する。やがて街に広まる「ええじゃないか（＝すべてを肯定してくれる言葉）」の大合唱のなかで「私」が最後に呟いたそのひと言を読むとき、我々の胸中にはえもいわれぬ感慨が芽生えるのである。それはかつて、サリンジャーの小説に涙したあの感覚に、そこはかとなく似ている。

もし主人公と同様の境遇の人があるなら、本作は最高の薬になってくれるだろう。良薬とて、ときには口に旨いこともあるのだから。(t.o)

つぶやきライム～図書館職員のメッセージリレー～

第 20 回 簡単便利な本のマイナンバー「ISBN」

図書館でこんな経験をしたことはありませんか？ 読みたい本を OPAC で検索しようとしてタイトルが思いだせなかったり、よくあるタイトルだと検索結果が数十冊も上がって戸惑ったり、目当ての 1 冊を莫大な数の資料から見つけるというはなかなか難しいことです。

こんな時の強い味方、それが ISBN です。実は見かけたことが誰でもきっとあるはず。手近にある本の裏表紙を試しに見てください。バーコードの近くに 13 桁（または 10 桁）の数字が印刷されているでしょう。ご存知の方も多いと思いますが、この数字、結構使えます。

ISBN (International Standard Book Number) は、現在発行されているほとんどの書籍に適用されており、世界共通の番号です。これは本の ID 番号のようなものなので、タイトル、著者、出版社、出版年、版のうちひとつでも異なれば番号も変わってきます。例えば、ラフカディオ・ハーンの『怪談』。長年、様々な出版社から同じ書名で多数発行されています。でも、もし探しているものが、『怪談/国書刊行会/2011 年出版』であれば、ISBN は 9784336053480 となり、こちらを控えておけば次に見つけるのは簡単で確実です。

授業や書店などで、後で見たい、買いたい、図書館にあるかどうかを知りたいという本があった時、背表紙の ISBN をさっとメモしておくことをおすすめします。私は ISBN を羅列した「読みたい本リスト」を作っています。人に見られたら、暗号か何かと思われてしまいそうですが…本を探すのに数字を打ち込むだけでよいこの方法は、面倒くさがり屋の私にぴったりです。

ISBN は多くの機関の書籍検索オプションとして採用されています。もちろん島大 OPAC の蔵書検索でも有効です。レポートを書く場合など、検索しなければならぬ参考文献が多ければ多いほど、時間節約とストレス軽減の便利ツールとなってくれることでしょう。(f)



みいなちゃん

ひどい雨！ 図書館に入りたけれど、傘を傘たてに置いて紛れてしまわないかしら。



ライム博士

ならコンシェルジュの用意した、この《傘タグ》を使ってごらん。このタグは、うっかり傘を忘れて帰ったり、他人の間違ってしまったり——というトラブルを防ぐために用意したんだ。つまり、傘の目印の役目を果たしてくれるわけだ。傘たてのそばにあるポスターに詳しい使い方もあるから、ぜひ活用してほしい。



けんさくくん

じゃあ、こっちの赤い警告タグが付いた傘たちはなに？



ライム博士

そのタグが付いている傘は、長いこと傘たてに放置されてかさばっていたものなんだ。タグにある期日（11 月末）までに持ち帰られない場合には、処分される予定なんだ。だからもし、そのなかに自分の傘がある人は、早めに持って帰っておいてほしい。